

専門学科を有する市立高校のあり方検討について

1 福岡市の高校を取り巻く環境

- 福岡地区の15～19歳人口は、2030年（R12）頃までは増加するが、その後減少に転じると予想されており、それに伴い福岡地区でも高校再編が始まる可能性が高い。
- 専門学科については、社会経済情勢の変化に伴い、求められる人材像が変化してきている。

2 福岡市立高校の現状

総合学科・普通科

福翔高校【定員：320名/学年】

- 進学型総合学科として、生徒のニーズに応じた科目やコースを設定し、進学実績が向上。

実施年度	志願倍率	卒業年度	国公立大学	西南学院大学	福岡大学
平成24年度	1.37	平成24年度	24	100	240
平成29年度	1.26	平成29年度	23	127	254
令和4年度	1.33	令和4年度	37	146	331

福岡西陵高校【定員：320名/学年】

- 近隣私学の状況の変化などにより志願倍率は低下しているが、普通科進学校として市内の西南学院大学や福岡大学の合格者数が増加。

実施年度	志願倍率	卒業年度	国公立大学	西南学院大学	福岡大学
平成24年度	1.50	平成24年度	17	38	96
平成29年度	1.31	平成29年度	33	118	243
令和4年度	1.08	令和4年度	26	156	270

専門学科

福岡女子高校【定員：320名/学年】

- 多くの学科で、近年、募集定員割れが発生している。
- 各学科で資格取得等を推進しているが、必ずしも、その後の進路に結び付いていない。
- 学科によっては、教育内容が中学生や社会のニーズに合っていない。

実施年度	服飾デザイン	食物調理	保育福祉	生活情報	国際教養	普通	平均倍率	進学	就職
平成24年度	1.50	1.48	1.45	1.58	1.40	1.25	1.39	227	38
平成29年度	1.10	1.15	1.08	1.03	1.30	1.03	1.09	234	41
令和4年度	1.00	1.23	0.95	0.98	0.73	1.04	1.00	236	31

博多工業高校【定員：280名/学年】

- 工業に関する専門技術を習得させ、ものづくりのスペシャリストを育成している。
- 令和4年度も求人倍率(15.9倍)や就職内定率(正規100%)は高く、企業の採用意欲は強い。
- 学科によっては、教育内容が中学生や社会のニーズに合わなくなりつつある。

実施年度	機械	自動車工学	インテリア	建築	画像工学	電子情報	平均倍率	進学	就職
平成24年度	1.71		1.54		1.63		1.64	72	171
平成29年度	1.54	1.23	1.48	1.48	1.30	1.50	1.44	64	197
令和4年度	1.05	1.13	1.40	1.48	1.43	1.40	1.28	96	172

3 総合学科・普通科の今後の方向性

- 2030年代から生徒の減少が見込まれることから、私立や県立高校の動向を踏まえながら、進学校としてさらなる魅力化に取り組んでいく必要がある。特に、ICT教育や探究学習等の学びを強化するなど、進学実績向上に向けた取り組みを推進していく。

4 専門学科の今後の方向性

(1) 基本的な考え方

- 進学先として魅力に欠け、募集定員割れとなっている学科の改編に早期に取り組むとともに、地域の産業を支える専門的人材を育成するため、教育内容等の抜本的な見直しを進める。

(2) 国が示す高等学校の専門学科のあり方 (R3.1.26 中央教育審議会答申一部抜粋)

- 地域の持続的な成長を支える最先端の職業人育成を担っていくには、加速度的な変化の最前線にある地域の産業界で直接的に学ぶことができるよう、産業界と高等学校と一体となった、社会に開かれた教育課程の推進が重要である。
- 専門高校段階での人材育成の在り方を整理し、それに基づく教育課程の開発・実践を行うことが必要である。
- 必ずしも3年間に限らない教育課程の開発・実施や、高等教育機関と連携した一貫した教育課程の開発・実施の検討も考えられる。

(3) 今後の進め方

- 専門学科を有する学校については、社会経済の変化を踏まえた今後のあり方を検討するとしていたところであるが、生徒や産業界のニーズに的確に対応するため、外部委員による有識者会議を設置し、年度内を目途に検討を進めていく。